

平成11年度  
(1999)  
第39回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

男子は予想通り札幌藻岩の圧勝的強さの前にどのチームも歯が立たない状態であった。10年連続20回目の優勝を飾った。10年連続優勝を2回達成するという偉業を成し遂げた橋場・松坂の2ポイントは堅く、更にはダブルスの成長も重なって、危なげない優勝であった。準優勝をした札幌日大もジュニア選手を揃えて、手堅い陣営を作りつつあり、将来、打倒・札幌藻岩を目指す候補の筆頭に成長した。ベスト4位までを札幌勢が占めてしまった男子は、地方勢の健闘を期待したい。

女子も前評判通り、札幌清田の3年連続15回目の優勝となった。3ポイントともに穴のないオーダーで、隙のないものであった。準優勝の静修も、もう一步というところで足踏みしているところである。3位に入った函館東は2年連続で3位に入賞し、益々地力をつけてきている。また、メンバー不足を気力で補って3位に入った室蘭大谷も称賛に値する。

男子ダブルスは全国大会へ3組が出場できるが、全部藻岩で占めたのは立派。特に橋場・松坂組は安定感を増し、他を大きく引き離している。男子シングルスは橋場の独占場で、他を圧倒的にリードしている。全国大会ベスト4も期待できる。

女子ダブルスは、札幌支部で負けた富山・高山組(札幌清田)が雪辱して優勝した。準優勝は札幌支部で優勝した2年生ペアの田辺・松沢組(札幌静修)となった。第3位に入った函館東の菊池・吉田組の健闘も光った。また、1・2年ペアの溝渕・松本組(札幌清田)の成長が期待できる。女子シングルスも、ダブルスと同じく札幌支部の逆の結果となった。椎間板ヘルニアからくる腰痛に悩まされていた田辺(札幌静修)が復調し、圧倒的な強さを見せつけて優勝した。準優勝した富山(札幌清田)のサービスも一層の威力をつけた。ベスト4位の中に2年生が3人というレベルの高さを示した。昨年の優勝者も第3位の者もベスト4に入れないという激しさであった。

【全国大会】

結果的には予想に反したものであったが、個々の戦績を見ると結構なものも混じっている

た。

男子団体戦は、ベスト4入りが期待された札幌藻岩が、3回戦(ベスト8決め)で大阪の履正社と対戦。ダブルスは落とししたものの、エース橋場が6-1と取り、勝敗は松坂のシングルス2にかかった。接戦の末負けはしたものの素晴らしい試合であり、全国ベスト8の実力は、“札幌藻岩ここにあり”を示すことになった。

女子団体戦の札幌清田は、第3回戦で、今回優勝した四天王寺(大阪)と当たり、たいへん善戦、ダブルスは3-6、シングルス1が2-6で内容的には充実したものであった。四天王寺はほとんどの試合を6-0で勝ち続けるチームであり、2・3ゲームを取るのには至難の技である。実力がついてきたと同時に、精神的にも成長したことが窺われる。

個人戦は、男子シングルス橋場(札幌藻岩)にベスト4ないしはベスト8が期待されたが、全国高校ランキング14位の増村(神奈川・湘南広大附属)に惜敗した。同じく2年生の松坂(札幌藻岩)も、3回戦で全国高校ランキング10位の宮崎(熊本マリスト)に敗れた。

女子シングルスは、1回戦で富山(札幌清田)が全国ランク13位の米村(熊本鎮西)に完敗した。2回戦まで進んだ高山(札幌清田)は、ランキング7位の飯島(二階堂)に、田辺(札幌静修)はランキング19位の松井(静岡市立)に、溝渕(札幌清田)はランキング6位の道慶(四天王寺)に負けた。ベスト4、ベスト8を目指すには、この程度のランクの相手には勝てなくてはならない。全国ランク20位前後がつく実力と推定される田辺は、勝てる試合を落としているので、今後の奮起が待たれる。

男子ダブルスは、橋場・松坂組(札幌藻岩)が全国ランク第4位の末田・権組(柳川)に6-7、4-6と惜敗した。女子ダブルスは2回戦で田辺・松沢組(札幌静修)が全国ランク2位の伊藤・道慶組に完敗した。しかしながら、富山・高山組(札幌清田)が3回戦(ベスト16)まで勝ち進んだのは健闘に値する。ベスト8を賭けた試合では、全国ランキング5位の相手に涙を吞んだ。

( 専門委員長 横山 俊之 )

## 優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

藻岩高校男子テニス部は今年2度目の全道大会10連覇を達成することができました。私自身、昨年、一昨年の全道大会の優勝も経験していますが、今年は主将として部員を引っ張っていくことができ、3年間で一番うれしい優勝となり、喜びもひとしおです。この全道大会の前には1つの大会で思わぬ負けを喫し、私達は絶対に全道大会に優勝するために、そして全国大会で上位進出するために、毎日テニスボールが見えなくなるまで、練習を続けました。個人の技能はもちろん、チームワークの向上にも努め、つらく厳しい練習も部員全員でお互いを助け合い、励まし合いながら乗り越えてきました。監督の先生からは技術向上の事だけではなく、高校生としての生活態度や、礼儀も教えていただき、テニスの技術だけではなく、人間的にも成長してきたと思っています。

全道大会の決勝では、私達に優勝しなければいけないというプレッシャーが重くのしかかってきましたが、部員や監督の先生方の応援のおかげでのりきることができ、3-0で

圧勝することができました。出場した選手だけではなく、部員全員で戦って得た優勝でした。部員全員で得た喜びは、今までに自分が得た優勝よりもずっと素晴らしいもので、2度目の全道10連覇という事も重なり、一生忘れる事のできない優勝となりました。

( 札幌藻岩高校 主将 橋場 俊輔 )

## 優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

―― 3年連続15回目の全道優勝――

このタイトルをものにするため、私達はただひたすらボールを追い続けました。6月17日、団体戦優勝。この日を常に意識しながら日々練習を重ねてきました。「清田一本先リード！」私達の攻撃開始です。ボールを打ちリターンを返す。ただそれだけのことなのに、もはやそんな簡単な言葉では言い表せないものとなっていました。これほどまでに一球の大切さを感じたことはありません。この一球のボールに今日までの思いを込めていました。確実にポイントを取っていき、迎えたマッチポイント。リターンからの長いラリー戦が続いている中、相手のボールが大きくアウト・・・・・・ゲームセット。優勝を勝ち取りました。この瞬間の、勝ったという喜びと、終わったという安堵感で満たされた心は忘れることができません。このような結果を残すことができたのは、テニスを通じて色々なことを学び、またたくさんの人との出会いがあったからこそだと思います。そして、何より、緒方先生との出会いが一番大きなものでした。先生のおかげで今の私達があります。本当にありがとうございました。

―― ここで終わりではない。ここからが本番だ――

自分達への挑戦は今始まったばかりです。

( 札幌清田高校 主将 高山 麻美 )

全国高校総体 (第89回全国高等学校庭球選手権大会) 岩手

8月2日～8日

盛岡市立太田テニスコート

岩手県営運動公園テニスコート

男子	個人戦シングルス	優勝	古川 隼士 (堀越)
女子	個人戦シングルス	優勝	伊東千佐世 (静岡市立)